

都市デザイン研究室・プロジェクト紹介
2010.4.13

都市空間の構想力

Study on the Design Potential in Urban Space

無名の風景にも意志があり、企図があり、
物語があるという「事実」 —

Angle

All urban landscapes must have their specific intentions with their own stories, even if they seem to be anonymous or random —.

都市空間そのもののなかに積層された「意図」が織り込まれ、
あたかも共同の意志のように読める、そうした意志があることを示したい。

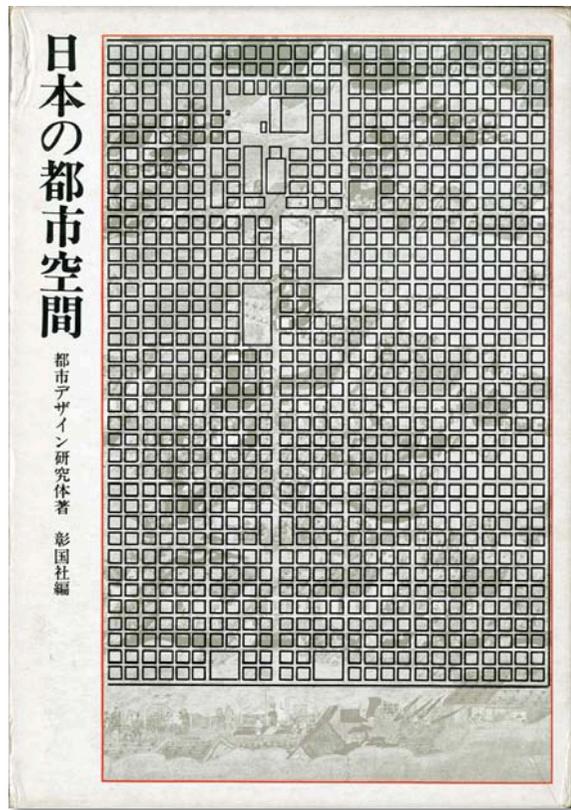
都市空間に内在している**構想力**を明文化することによって
都市空間の構成をよりよく理解するだけでなく、
都市空間を良い方向へ変えていく契機と可能性を
見いだすことができるのではないか。

こうした作業は新しい時代における日本の都市計画の基本作業となり、
都市デザインの拠って立つ指標となると信じるからである。

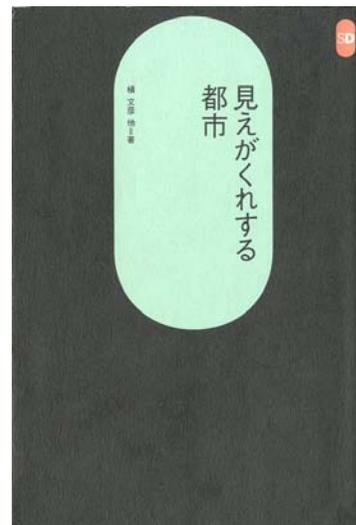
(西村幸夫「都市空間の構想力 序説」)

これまでの都市論・空間論を乗り越え、
新たな都市デザイン・まちづくりの方法論の確立をめざす

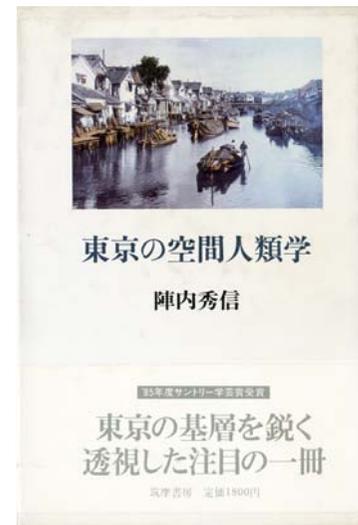
This studies aim to establish the advanced methodology for urban design and planning.



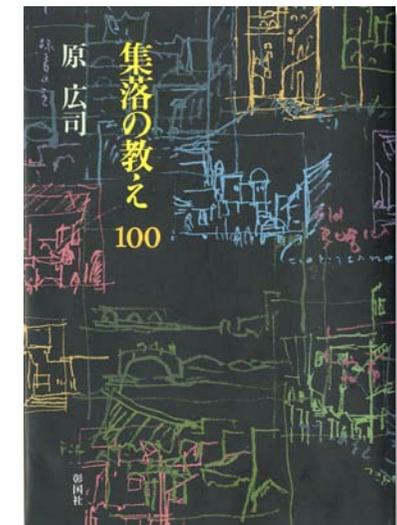
Urban Design Study Team (1968)



Fumihiko Maki (1980)



Hidenobu Jinnai (1985)



Hiroshi Hara (1998)

Previous Japanese urban studies

これまでの経緯

Process

- 2006年12月

オギュスタン・ベルク氏を招いての本郷まち歩き。
→プロジェクトの契機。（成果は連載第1回へ）

- 2007年～2008年

東京をフィールドとした調査と

『季刊まちづくり』への連載（全8回）。

※同時期の「新宿プロジェクト」（新宿区景観計画策定に向けた調査）

→「あらゆる市街地に景観形成の手がかりが内在している」という
共通の視点。

- 2008年～2009・2010年

連載内容を下地に、出版に向けた全国調査の実施。

並行して、コアメンバー(西村教授+中島直, 野原, 窪田, 阿部, 中島伸, 永瀬)により、
本の全体構成の検討。

→目下、今年度の出版を目指して継続中。

『季刊まちづくり』での連載

Serialization on the magazine "Kikan Machizukuri"
Case studies in Tokyo : 2007-2008

都市空間の構想力
- 空間文化の博物学 東京 -

13号 (2007) ~20号 (2008)
全8回

- 第1回：序説・本郷
- 第2回：地形
- 第3,4回：街路
- 第5回：対比
- 第6回：個と全体
- 第7回：情景（人為）
- 第8回：情景（自然）





【台①】 台町と菊坂を結ぶ一筋のみちを辿ると、微妙に軸線の振れた箇所遭遇する。
(下図のA地点)

台町・本妙寺跡（文京区本郷5丁目）
（102頁）

みちの形が漸進の
履歴を刻む

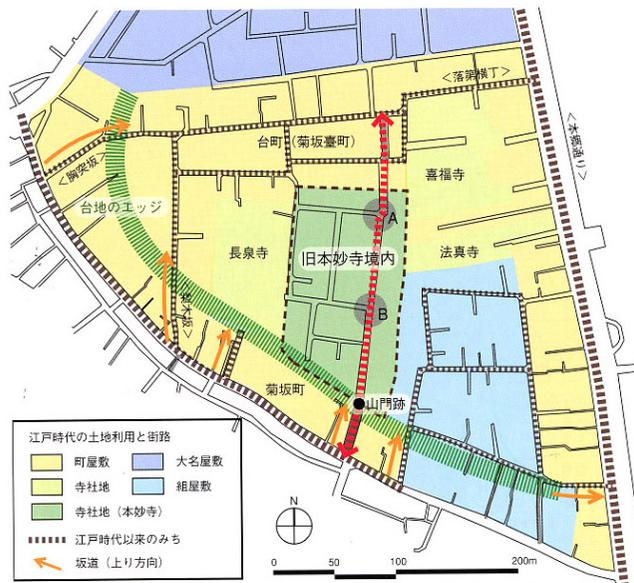
江戸時代、台町周辺には土地利用の異なる複数の領域が組み合わされていた。菊坂町と尾根道の本郷通り（旧中山道）、谷道の菊坂に沿って町屋敷が、南東の一角には組屋敷が、これらの領域に囲まれるように、内側に四つの寺院が存在した。このうち、菊坂から参道を引き込んでいた本妙寺は、明治42年に移転することとなり、当初の参道は徐々に延伸され、台町へとつながる一筋のみちができる。



【台③】 幅員の変化（B地点）



【台④】 日本妙寺参道



【台②】 台町と菊坂を結ぶみちが抜ける一帯は、かつて本妙寺境内であった。



【森①】 本郷通りから直交する宮前通りをまっすぐ進んでいくと、その先に三角形の膨らみのある不思議な六叉路にあたる。この叉路は、地域の領域性をつかむための「へそ」となる。

森川町（文京区本郷6丁目）
（101頁）

又路がまちの領域をつかみとる

江戸期まで下屋敷であった敷地が、明治期以降の宅地化により都市に取り込まれ、地域のまとまりが見えにくくなった。しかし、中央の「又路」とこれを中心とした街路により、「宮前・宮裏」を始めとした領域が今も見え隠れする。また、又路や曲がり角が地域にもいくつか存在し、領域性をつかむ手がかりとなる。



【森③】 本郷館前の「又路」



【森④】 太米館前の「曲がり」



【森②】 中央の六叉路を中心として見えにくい領域が把握できる

図7 繁華街から公園を望む



図8 公園の樹木が墓地に潤いを与えている



図9 街区を一周する大きな樹木



図3 清澄庭園入口（左）清澄公園入口（右）（江東区）



図6 南池袋公園と寺院群（豊島区）



図4 清澄庭園開園当初（昭和12年）（東京1万分の1地形図集成）



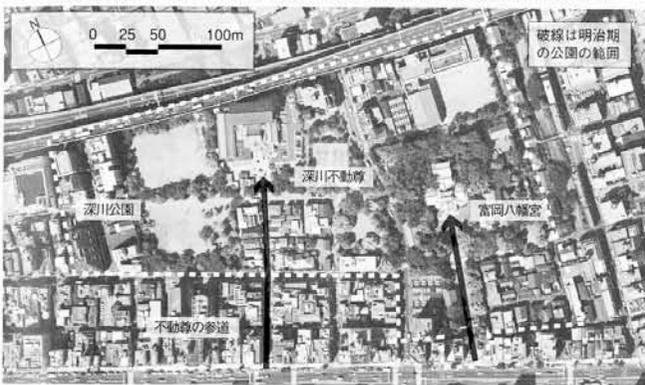
図5 現在の清澄庭園・清澄公園



図1（左から順に）深川公園、深川不動尊、富岡八幡宮



図2 深川公園周辺の現況（江東区）（Google Earthより抽出した航空写真に筆者加筆）



東京のオープンスペースは、質の異なる領域を取り合わせ、併置させながら成立しているものが多い。これらは一見すると便宜的な印象を与えるが、そこには都市の営みを豊かに醸成する手法が見えがくれている。

●隣り合う開放領域が、まちの営みを包容する

●「合わせ技」の空間創出

●領域二分法の妙

異なる質を持った領域の組み合わせは、ある必然性をもって生み出される場合がある。都市改変に対する大きな意志を持ちながらも、旧来の構造に規定されざるを得なかった近代の東京においては、既存のストックを活用しつつ、新たな目的にも適うような空間創出の手法が捻出された。その端的な例が公園である。

東京の公園は、明治6年の太政官布達により、寺社境内（寛永寺、浅草寺、増上寺、富岡八幡宮）や名所（飛鳥山）に指定されたものに端を発する。レクリエーションの場として定着させることを考えれば、以前から庶民に浸透していた遊樂的な場に公園を重ね合わせる手法は、理に合ったものであった。

●神域と遊興域の併存
 寺社の境内は、信仰の場であると同時に、祭事や催し物といった娯楽の場でもあったが、後者の質を継承しつつ転換を試みたのが、境内の公園化であった。その意味で、富岡八幡宮の境内に設けられた深川公園（江東区）の空間配置は興味深い。

庭園の流れを汲む名園として知られているが、その西側には、より開放的な清澄公園が隣り合う。

これらの敷地は、明治13年に岩崎弥太郎により「深川親睦園」として造成された、一体の庭園であった。同園は、大正12年の関東大震災において、下町の貴重な避難場所となったのを契機に、東側半分が東京市に寄付され、昭和7年に清澄庭園として開園する（図4）。一方で西側の私有庭園は、企業用地等に転用された後、今度はより開放的な公園空間として整備され、現在の状態が生み出された（図5）。境界を貫く道路を挟んで、両園の入口を角地に設け、隣接させることで、互いの一体感がより印象づけられる（図3）。

都市のオープンスペースの質や意味を、時代に応じて巧みに取り合わせながら推移した結果、市民に開放されたのびやかな憩いの領域と、江戸以来の庭園をしのぶ興趣に富んだ領域が違和感なく併置され、都市の余暇文化を豊かに彩るのである。

●補完された静寂
 池袋駅東口の繁華街から一歩踏み入ると、別世界のような静寂と緑に包まれた空間が存在する（図7）。戦災復興の区画整理で整備された南池袋公園（豊島区）である。

付近の静寂は、層状に取り囲まれた街区配置と、背後の墓地により担保されている（図6）。区画整理の際に、付近に散在していた複数の寺院と公園とが、一街区に束ねられた結果である。公園と墓地は、互いに周囲の市街地との緩衝帯となり、都会の喧嘩を隔ている。墓地はビルの圧迫感を遠ざけ、公園の樹木は、墓地に潤いを与えている（図8）。さらに周囲を歩くと、敷地境界の植栽の設えにも統一感があり、市街地の側からも、一体の領域として感じることがができる（図9）。

震災・戦災は東京におけるオープンスペース拡充の大きな契機となったが、互いに限られた敷地を効果的に組み合わせることで、高密度な都市環境に、落ち着きとゆとりをもたらしているのである。

（永瀬節治・後藤健太郎）

構成を見ると、八幡宮の西に深川不動尊が立地し、その周囲に取り付くように深川公園が位置している（図1、2）。当初この領域は、富岡八幡宮の別当・永代寺の境内であった。維新後の神仏分離令により永代寺は廃寺となり、跡地が深川公園となるが、江戸時代に永代寺で成田山不動尊の出開帳が行われ、大いに人気を博したことから、明治15年に不動堂が新たに建立される。現在、不動堂への参道沿いには、参詣客相手の店が連なり、隣接するレクリエーション空間と一体となって、賑わいの領域を形成している。

開放的で遊樂的な性格を継承した西側に対し、東側の富岡八幡宮の社殿周辺は、鬱蒼とした緑に覆われ、今も静かな神域として維持されている。このような質の異なる領域の組み合わせが、不動尊の緑日と、勇壮な深川祭りという、深川に欠かせない催し／祭事を強かに支えている。

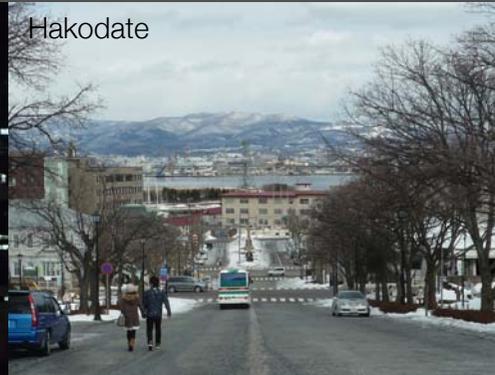
全国調査を展開 (2008-2010)

Extension researches in all over the country

Sapporo



Hakodate



Kamaishi



Ishinomaki



Niigata



Fuji-Yoshida



Kanazawa



Unno-juku



Hino (Shiga)



Ohmi-Hachiman



Izumo



Fukuoka



